

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101598		
法人名	社会福祉法人 青葉福祉会		
事業所名	青葉の風		
所在地	仙台市青葉区荒巻字三居沢1-16		
自己評価作成日	平成23年2月7日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 23 年 2 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの理念として職員全員がお年寄りの習慣と尊厳をお守りすることを掲げています。また三つの文化をお守りしています。「礼儀正しい文化」「物を大切にす文化」「忍耐強い文化」

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.広瀬川沿いの自然豊かな閑静な所に位置し、特養老人ホームや軽費老人ホームが隣接し、入居者同士の行き来や合同行事等が開催され、楽しく暮らし易い環境にある。入居者1名当たり職員数が多い、自己決定尊重、これまでの生活習慣を守るケアに力を入れており、表情がおだやかになったと、家族から感謝されている。家族会が良く機能し、活発な意見等が出され、家族協力の下、サービス向上に反映している。職員から毎年意見書が出され、改善に反映している。
2. ホームが昨年の目標達成計画に掲げた避難訓練時の地域協力体制は、運営推進会議や家族会での協力依頼を進めると共に、関連施設居住者の参加を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 青葉の風

)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域住民との交流も含め、事業所独自の理念を掲げ、全職員が理解し、実践の場で活かされている。	入居者の尊厳と習慣を守る事を掲げ、その人らしく暮らしていけるよう、見守り、そっと支える実践に努めている。昨年、外部評価で見直しを期待した地域密着について、施設目的に反映したが、理念の見直しまではされてない。	「互いに共感しあい、親身になって接し、信頼しあえる関係をつくります」の理念に、施設目的の一つの「地域住民との交流の下での自立した生活支援」の意義を盛り込むよう期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣は他事業所が主であるが、納涼大会への参加や日常的な交流も行なっている。(茶話会、絵の交換)地域でのお祭りも参加している。	町内会に加入、夏祭り等の行事に参加している。運営推進会議で芋煮会等ホーム行事への誘いも行っている。近隣は同法人特養老人ホーム等の各種事業所があり、入居者は茶話会、ぬり絵交換等、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会、運営推進会議を開催し取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を実施できている。家族代表、主治医、地域包括支援センター、町内会、民生委員の方に参加して頂いている。事業者からの報告(近況状況、外部評価など)参加者からの意見を頂いている。	家族代表、協力医院医師、地域包括支援センター職員、町内会員、民生委員をメンバーにほぼ2ヶ月周期で開催しており、ホーム報告、外部評価への取り組み、ターミナルケア、災害時協力支援等で意見交換し、サービス向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実施指導の場で事業所の実情や取り組みを報告している。更に随時、不明な点があれば相談している。	法人理事長がホーム管理者で、区グループホーム協議会、地区ケア会議、介護保険審査会等の場を通し、区役所関係部署にグループホームの理解・支援を継続して働きかけている。担当者もホーム待機者等で随時相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行なっている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者個々の外出傾向を把握し、外出傾向の強い方にはその原因がどこにあるのかを全職員で話し合い、分析し、その要因の除去に取り組んでいる。また、ひとりで外出される方には、本人の思いを最優先し、ついて行く等の見守りに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行なっている。虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行なっている。虐待防止に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得を得られるよう努めている。気軽に相談できる雰囲気を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催している。また意見箱を設置している。	家族会を、年、3～4回開催している。ホーム状況報告後は、職員が席を外し、意見、要望を表せるようにしており、口腔ケア、預かり金、おむつ外し等での意見や職員写真のエレベーター内掲示等の要望を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業計画作成時に職員より意見をもらい反映させている。	毎年、全職員から、理念、食事・排泄・入浴等のケアプラン、ボランティアや行事、研修等の事業所運営に関する意見書を出してもらい、管理者、計画作成担当、職員で話し合い、改善計画としてまとめ、その反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により取り組みを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施や併設施設の専門職員の方からの指導、外部研修で学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に法人内の事業者が集まりネットワーク会議を開催している。仙台市内のグループホーム協議会に参加し、協議会の他会員との交流の機会や仙台市内開催の研修に参加し、サービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くことから行なっている。1対1でのコミュニケーションの場を意識して作り(寄り添いケア)、意向を汲み取れるよう努力している。話しやすい環境作りにも心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際や、電話等によって話を聴く機会を設けている。又各ケース担当がより親身に接することで相談しやすい環境づくりに努めている。信頼関係作りも努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上司、管理者と相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアされるケアを念頭に、職員は本人が本人らしく生活できる距離感を大切にしながら支援している。又、家事や文化などを話の中から教えていただき共に楽しみながらも支えあえる関係となるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告、行事のお誘い等により面会や行事に来て頂けるよう働きかけて、実際の状況をお伝えできるよう努めている。状況が変化した際には一緒に支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報を元に、出来る限り今までの環境が保たれるよう努めている。ケース担当が家族等と相談し、外出や交流が保てるよう支援している。又電話、手紙のやり取りを支援している。	本人、家族からこれまでの人間関係、趣味等を伺い、絵が好きな入居者には家族が出展した展覧会、行きつけの店への食事の同行等、その関係が続けられるよう支援している。入居者同士の仲間作りにも心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や能力を踏まえ、円滑な人間関係が保たれるようにしている。会議等において話し合いの機会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気兼ねなく相談をして頂けるよう声を掛けている。退所後も行事などに参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別や日常会話から意向を把握するように努めている。生活暦等を参考に本人本位となるよう気をつけている。ケアプランにも反映している。	ありのままの言葉や表情、しぐさ等から一人ひとりの思い、希望等の把握に努め、東京センターシートにまとめている。入居間もない方には、お茶飲み等の寄り添う時間を大切に、生活歴や習慣等を聞き出すよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用したフェイスシートを定期的に記入し職員一人ひとりが熟読するように努めている。又、お茶のみの時間や1対1での会話の時間に生活暦を聞き出す時間を設けている。御家族からは面会時等に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況が把握されやすい記録の工夫をし努めている。現状を把握し対応の統一が出来るよう定期的に話し合いを設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントにおいては計画作成担当者が主となり実施、各担当からも詳しい情報を確認し作成している。家族からも定期的な面会、電話にて意向を確認している。書面や記録も残している。月ごとに評価を行い、年に2回は見直しを行なっている。	日々の関わりでの入居者、家族の思い、気付きを各担当者が「ケアプラン評価表」にまとめ、毎月の会議で話し合い、計画作成担当者が総合評価し、サービス計画書に反映し、定期的には年2回、家族に説明、話し合い、同意を得ている。医師、栄養士等の意見も聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しにつながる様、個別記録の様式を工夫するなど情報を共有し、それを意識しながらサービス提供できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を出来る限り実施している。柔軟な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域福祉施設等と協力しながら支援している。また、定期的に余暇活動のボランティアの方に来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月1回の往診や、受診、緊急時等で相談したいことがあれば常時連絡が取れるような体制をつくっている。受診後は家族への報告、記録にも残している。	希望するかかりつけ医を受診できるよう支援しており、通院に職員が同行している。協力医の月1回の往診、訪問看護ステーションの週1回の訪問が行われている。家族には通院報告書をファクシミリや電話で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バックアップ施設であるアルテイル青葉、契約している訪問看護にて健康状態の相談、看護を受けている。24時間オンコール体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の状況となった場合に、職員も付き添い医師の説明時に立ち会って御家族をサポートするように務めている。病院関係者にも利用者の普段の生活状況を説明し御家族の希望に沿いながら早期退院に努める働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方がそれぞれ違うので毎回模索しながらも方針を共有し行っている。又、他職種、かかりつけ医と連携を取りながら今後の変化等に備えて検討や準備を行っている。	重度化、終末期対応方針を定め、意向確認書、主治医意見書、看取り同意書を作成、家族、協力医等と話し合い、同意を得て、状況変化に応じた段階的な合意を行っている。急変の方を含む3名の看取りも行い、家族や職員のケアにも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について職員の中で不安があるので対応できる体制をつくってきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って、併設施設との合同避難訓練を年2回実施している。(地域住民にも参加をして頂いている。)	併設特養施設との合同避難訓練2回と夜間想定避難訓練1回を実施、併設自立支援住宅の住民の夜間避難協力を得る仕組みもある。スプリンクラー、緊急連絡装置設置済み、火災警報器、避難通路等の定期点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重した呼び方をしている。人前で恥ずかしい思いをさせないよう声かけの配慮をしている。居室の出入りの際は確認してから行なっている。	入居者が過ごしてきた時代の文化、習慣等を尊重することを心掛けている。トイレや入浴の誘いかけはゆっくりと話しかけており、食事の会話も含め、関わりのスピードやトーンがきつかったりする場面は見られない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時に訴える言葉と、もう一方で本当に言わんとしている意思を汲み取りながら、その方に伝わる方法でコミュニケーションを取っている。また、ペースを守り納得されるタイミングを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況を把握したうえで希望に沿った活動が出来様、出来る限り行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事、外出時には身だしなみやおしゃれに気を使っている。定期的に美容院にも出かけている。いつでも化粧品などを取り揃えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状況に応じ、対応している。(バッグアップ施設の栄養士とも相談している。)一緒に作業する事で会話も増え、充実感を獲得できるよう心掛けている。食材の買出しの際は旬なものを取り入れ、職員も一緒に同じものを食べている。食事の会話も大切にしている。	調理師資格保有職員が料理本参照ページを記載した献立表を作り、料理を目で見ながらきざみ食にする等個々の体調に配慮した食事としている。食材購入に、入居者が同行し、旬のものや好みで献立変更もあるなど、入居者と職員が準備、味付け、片付けを行い、共に食事全体を楽しめるものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の活用にて1日の食事・水分量の把握をしている。普通食が摂取困難な方には刻み食などの食事形態の工夫、代替食品の提供を行っている。食事の楽しみを損なわないような声かけを実施。介助するのみではなく、介添えを行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・昼食後・就寝時に口腔ケアを実施している。協力歯科とも連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用い排泄パターンを把握している。サインを見逃さず誘導している。おむつ外しを試みている。	排泄パターンを把握し、サインを見逃さないよう注意しながら、トイレでの排泄を支援している。おむつ外しに取り組み、夜間は睡眠優先でおむつの方も、昼間は布パンツやリハビリパンツに切り替え、家族から感謝されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないよう、食事の工夫、水分摂取の促しなどを行っている。係りつけ医との相談も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの習慣やタイミングを大切にしながら行っている。夜間浴も行っている。季節感も取り入れている。(ゆず湯など)	一人ひとりの希望を大切に毎日の入浴や夜間浴を支援している。浴場床暖房、簡易リフトが設置され、入居者が有効に利用し、安心して入浴を楽しんでいる。入浴を拒む方にはタイミングや職員を代えて誘いかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの起床時間に配慮したり、日中の適度な活動を提供し、安眠へつながる様に働きかけている。疲れやすい方には一定の休息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	周知事項として職員がいつでも閲覧できるようケース記録に種類・用法を記入しており、支援と確認作業に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力も頂きながら出来る限り実施している。生まれ故郷の福島への外出、馴染みの店への外出、墓参りなど実施できた。本人、家族へも満足頂けた。	散歩への誘いかけ、週2日の食材買い物等、日常、戸外に出かけている。車椅子の方の遠出外出を行い、家族から感謝されている。馴染みのコーヒー店、デパート等、個々の希望に沿った対応も行い、昨年2回目の家族同行で会津への墓参りは親戚に歓迎されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に買物の機会を通して支援している。希望に応じて使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に行なっている。介助が必要な方については職員が仲介となり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾り付けを行なっている。温度、湿度計を設置して随時対応している。また定期的に換気も行なっている。居間には和室などなじみのものが配慮してある。	食堂兼居間は南面の日差しで明るく、換気、温湿度も適切に管理され、冬季は床暖房で心地よい。入居者手作り品、園児訪問写真・手紙、行事写真等が壁に貼られ、豪華な雛人形等、生活感、季節感を醸し出している。テラスの小鳥巣作りが待ち遠しいとの声があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には和室、ソファなどもあり好きな場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染のある家具の持ち込みを積極的に取り入れている。仏壇を持ち込んでいただけの方がおり、手を合わせる機会を設け、習慣となる様支援している。	居室入口に手すり、腰掛けが設けられ、引き戸ドアで容易に出入りができる。家族に働きかけ、使い慣れたベッド、家具が持ちこまれており、家族写真や職員作成の誕生日色紙が飾られ、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方でも使用できるスペースの広いトイレやシンク・洗面台を設置している又、建物内部には使いやすさを考えた手すりを設置している。一人ひとりの出来る事を把握し意欲を持って取り組んで頂けるよう対応・働きかけに努めている。		